

〔国際会議発表〕

発表研究者	名古屋大学 言語教育センター 講師 大谷 将史	2252001
国際会議名	The 23rd AsiaTEFL International Conference 2025 (AsiaTEFL 2025)	
国際会議主催者	AsiaTEFL	
開催地	香港	
渡航期間	2025 年 7 月 10 日～2025 年 7 月 13 日（4 日間）	
発表論文名	EFL University Students' Motivation, Cognitive Load, and Satisfaction with Using Generative Artificial Intelligence (GenAI) for English Learning	

〔国際会議の概要〕

本国際会議（AsiaTEFL 2025 International Conference）は、例年、世界 30 ヶ国以上から 1,000 名を超える参加者が集うアジア最大規模の英語教育研究国際会議である。今年度も多数の研究者・実務者が参加し、英語教育に関する幅広い研究成果が発表された。近年は特に、生成 AI をはじめとする教育テクノロジーを応用した発表が増加しており、こうした研究の多くはエレクトロニクスや情報工学と接点を持ち、貴財団が掲げる「人間と機械の調和の促進」という趣意とも密接に関わる内容であった。

〔参加の目的・意義〕

本助成を受けて参加した目的は、生成 AI を活用した英語教育に関する研究成果を国際的に発信し、学術的評価とフィードバックを得ることであった。発表論文「EFL University Students' Motivation, Cognitive Load, and Satisfaction with Using Generative Artificial Intelligence (GenAI) for English Learning」は、EFL 大学生を対象に、生成 AI 活用による学習動機づけ、認知負荷、満足度を検証したものであり、語学教育と情報工学を結ぶ学際的研究であった。生成 AI を用いた英語教育は「人間と機械の調和の促進」に直接的に貢献するものであり、財団の趣意に合致した学術的意義を有している。

〔自分の発表の状況・反応〕

本研究は、学期末に実施したアンケート調査をもとに、学生のモチベーション、認知負荷、満足度を分析した結果を報告した（図 1-3 参照）。会場には多くの聴衆が集まり、質疑応答では生成 AI の教育的効果測定や倫理的課題に加え、生成 AI 利用が環境に与える影響についても議論が及び、自身では十分に考慮できていなかった観点を得ることができた。特に韓国、中国、トルコ、インドネシア、アメリカからの参加者と活発に議論し、多角的な視点を

共有できたことは大きな収穫であった。また、共同発表を行い、普段からオンラインで連絡を取っている研究者と対面で今後の展開を話し合い、日本と韓国の国立大学間で授業連携や客員授業の可能性が浮上した。さらに、研究活動としても今後年間 3 本程度の論文執筆を目標に進めていく計画が具体化した。

〔得られた成果・効果〕

本研究の成果は、学生が生成 AI を学習において有用かつ魅力的なツールと認識している一方、認知負荷や主体性のばらつきといった課題も浮き彫りにし、教育設計や AI ツールの統合に改善の余地があることを明らかにした点にある。これにより、高等教育における AI の役割に関する国際的議論を深化させる契機となった。また、会議を通じて世界各国の研究者と交流を深め、新たな共同研究や教育連携の可能性が具体的に見えてきたことは大きな効果である。さらに、CLIL アプローチなど他の教育実践への理解も広がり、教育現場に還元できる知見を得た。本助成により、資金的負担を気にせず研究発表と交流に専念できたことも大きな成果であり、研究の発展と国際ネットワーク形成にとって極めて有意義であった。

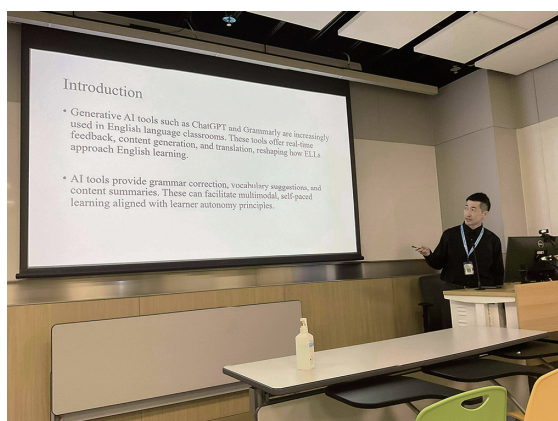


図 1 国際会議で発表する様子



図 2 会場の香港教育大学にて



図 3 宿泊したホテル前にある「大学」という名の駅